#### 第1章 理念・目的

#### 1. 現状の説明

#### (1) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を適切に設定しているか。

本学の理念にもとづく目的及び学科の目的を明確にしているかどうかについて現状の説明を行う。

短期大学の理念と目的については、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」と して制定している(資料1-1)。全文は長いため、要点を抜粋すると、本学は山形県が設 置した大学であることから、「地域のニーズに応え、教育と研究を通して地域の向上発展に 寄与し、教養と専門的知識を身につけた社会に貢献できる人間を育てることにある」とし、 また、本学の役割として、「知の発見・創造、伝達・継承に加え、知の活用・実用(地域貢 献)にも積極的に取り組んでいかなければならない」とした上で、「豊かな教養に裏付けら れた専門的知識・技能とともに、創造的課題探求能力を備えた人材を着実に地域社会に送 り出すことこそ本学の使命である」と本学の理念と使命を定めている。この理念と目的・ 目標にしたがって、「山形県立米沢女子短期大学定款」第1章で、本学の目的を「この公立 大学法人は、地方独立行政法人法(平成 15 年法律第 118 号。)に基づき、短期大学を設置 し、及び管理することにより、豊かな教養に裏付けられた専門的な知識と技能を身に付け、 着実に社会を支える女性の人材を育成するとともに、地域に根ざした短期大学として真理 の探究と知の創造に努め、もって地域ひいては社会全体の持続的な発展に寄与することを 目的とする」と明確に定めている(資料1-2 第1章 総則)。さらに「山形県立米沢女 子短期大学学則」第1章第1条にも同様の目的をうたっている(資料1-3 第1章第1 条)。

#### 〔国語国文学科〕

国語国文学科の理念と目的は、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」に「学 科の目的」として以下のとおりに設定している(資料1-1)。

国語国文学の専門知識を身につけることによって、正しい日本語を用いる力を有し、より緻密な論理的思考能力をもち、伝統文化の豊富な知識を駆使して地域・社会に広く奉仕し得る人材を育成することを目的とする。具体的には、教職資格、図書館司書資格などの資格取得、あるいは、より高度な言語能力の習得などを通じて幅広く社会に貢献できる有用な人材を育成する。

このため、(1)日本文学、日本語、漢文学、情報検索などの教育を通して、日本文化 全体の特質と伝統を理解し、日本人としてのアイデンティティを身につけることによっ

### 公立大学法人 山形県立米沢女子短期大学 自己点検・評価報告書 第1章 理念・目的

て、「国際社会に開かれた日本人」たり得る資質能力を育成する。(2)人間の諸活動や 生活についての基本的認識を深めることによって、問題解決能力を高め、困難に対処す る叡知を養うことを教育目標とする。

上記の理念・目的を達成するため、平成 24 年度年度計画に、次のように定められている (資料 1-4 第 2-1-(1))。

国語国文学科では、少人数教育をさらに充実させ、学生一人一人に対応した濃やかな教育の徹底を目指す。演習を重視し、1年次の基礎演習と2年次の応用演習の関連性を活かした学習の定着を目標とし、1年次は年度初めに、2年次は前年度の終わりに、学生個人の志向に応じた演習の振り分けを行う。

#### [英語英文学科]

英語英文学科の目的と教育目標は、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」に 以下のとおりに設定している(資料1-1)。

英語を中心とした高等語学教育並びに国際感覚の涵養に重点をおいた教育を行うことを目的とする。具体的には、教職資格の取得、あるいは、TOEICや英語検定における優秀な成績・資格をもち、英会話能力や英語英文学の知識を活用することで、広く社会に貢献できる有用な人材を育成する。

このため、(1) 実践的英語教育により、英語を駆使できる能力を習得させる。(2) 英米文学とその関連分野を学ぶことにより、国際的に通用する、ものの見方・考え方を深めさせることを教育目標とする。

また、上記の理念・目的を実践するために、平成 24 年度年度計画に、次のように定められている(資料 1-4 第 2-1-(1))。

英語英文学科では、少人数教育を充実させ各学生からの需要に対応した教育を目指す。 1年次後期の基礎演習と2年次の演習で細やかな指導を充実させ学習の定着を図り、2011 年度新カリキュラムの運用を検証する。

#### [日本史学科]

日本史学科の目的と教育目標は、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」に以下のとおりに設定している(資料1-1)。

幅広く豊かな教養と日本史学及びその関連分野における専門知識を身につけることに

# 公立大学法人 山形県立米沢女子短期大学 自己点検・評価報告書 第1章 理念・目的

よって、歴史的な洞察力と柔軟かつ論理的な思考力をもって、社会の発展に貢献できる 有為の人材を育成することを目的とする。具体的には、教職資格や図書館司書資格、博 物館学芸員資格の資格取得、あるいは、歴史認識を基盤とした他者理解能力などを通じ て社会に貢献できる有用な人材を育成する。

このため、(1)日本及び世界の歴史に対する深く広い理解力と洞察力を習得させる。 (2)数多くの歴史資料や文化財に接することを通して、地域の歴史・文化財に対する深い理解と愛護の念をもたせることを教育目標とする。

また、上記の理念・目的を実践するために、中期目標や中期計画に基づき、平成 24 年度年度計画では、次のように定められている。(資料 1-4 第 2-1-(1))。

日本史学科では、幅広い知識を身につけさせると共に、資料の読解力の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。知識を具体的に応用できるよう科目内容及び資料を精選し、史学実習の内容及び講師の見直しを行い、実習のさらなる充実を図る。

#### [社会情報学科]

社会情報学科の目的と教育目標は、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」に 以下のとおりに設定している(資料1-1)。

情報社会の構造、動態、技術の本質を深く理解し、それらを基盤として分析力、表現力、応用力を培い、地域や社会の発展に寄与することのできる意欲的な人材の育成を目的とする。具体的には、情報処理技術や図書館司書などの実務資格をもって、社会の諸分野に広く貢献しうる有用な人材を育成する。

このため、(1) 現代社会の仕組みや人間集団に関する理解を深めるための基礎知識を習得させ、実社会における諸問題を正確に分析し柔軟に対処できる能力を涵養する。(2) 情報技術の専門知識を体系的に習得させ、それらを応用して情報社会で要求される問題解決能力や情報メディアによる表現力を高めることを教育目標とする。

また、上記の理念・目的を実践するために、中期目標や中期計画に基づき、平成 24 年度年度計画では、次のように定められている。(資料 1-4 第 2-1-(1))。

社会情報学科では、課題探求能力とコミュニケーション能力を持った学生の育成を目指す。「経済と経営分析」「人間社会と心理」及び「メディア表現と情報」の3つの分野からの専門教育を組み合わせることによって、幅広い情報活用能力の育成に努めるため、1年次では上記3分野を幅広く学習し、2年次においては学生各自の志向に応じて、より専門分野に特化した学習を進める。

# 公立大学法人 山形県立米沢女子短期大学 自己点検・評価報告書 第1章 理念・目的

#### [健康栄養学科]

健康栄養学科の目的と教育目標は、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」に 以下のとおりに設定している(資料1-1)。

人間の心身の健康を通して限りある生命の尊厳を認識し、健康を維持・増進させる専門的な知識と技能を有する人材を育成することを目的とする。

具体的には、今日的な健康の課題に対応し、社会に貢献できる有用な栄養士を育成する。

このため、(1)健康に関する知識・技能を身につけた、幅広い人間性を涵養する。(2) 現在社会における栄養士教育の質的向上のために、健康に関する基礎理念のもと、各個 人のライフサイクルに合わせた運動と食事のあり方について、生活指導のできる能力を 養うことに重点を置く。

以上を踏まえて、健康栄養学科では、平成 24 年度年度計画において下記のとおり定められている(資料 1-4 第 2-1-(1))。

健康栄養学科では、実習科目の内容をより充実させ、現場に対応した応用力を発揮できる実践力を備えた栄養士の育成を目指し、現場(栄養士・栄養教諭・食品関係)に対応した応用力をつけるための実習科目内容の充実に努める。①栄養士養成の一環としてさらなる調理技術の向上を目指すとともに、ヒトの形体とも関わり深いエネルギー収支バランスを学習する。②栄養教諭養成として教育現場での体験の充実と教育技術の向上を目指す。

# (2) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員(教職員及び学生等)に 周知し、社会に公表しているか。

本学の理念・目的について、本学の構成員に対して周知する方法、さらには社会に対する公表方法の適切性について現状を解析していく。

短期大学の理念と目的・目標は、各学科についての「各学科の目的と教育目標」を含めた形で「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」として本学規定集に収載されている(資料1-1)。また、理念と目的・目標にしたがった短期大学の目的は、「学生生活の手引」(資料1-5 P1 本学の目的、資料1-5 第1章総則第1条 P26)に明示している。さらに、「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」(資料1-1)に基づいて「大学案内」(資料1-6)や「教育方針」(資料1-7)を作成している。さらに本学ホームページ上で公開している。

大学の理念と目的・目標 <a href="http://www.yone.ac.jp/outline/philosophy.html">http://www.yone.ac.jp/outline/philosophy.html</a>

学則 <a href="http://www.yone.ac.jp/outline/regulations.html">http://www.yone.ac.jp/outline/regulations.html</a>

短期大学構成員に対しては、教職員には、「学生生活の手引」、「大学案内」、「教育方針」を全員に配布している。また、新規採用教員に対しては採用時研修において配布するとともに説明している。学生にも「学生生活の手引」を全員に配布するとともに、新入学生に対しては入学後のオリエンテーションにおいて説明を行っている。

社会に対しても、上記のように本学ホームページ上で公開している。さらに「大学案内」は入試説明会やオープンキャンパス、教職員による高校訪問等で配付したり説明を行っている。主な配付先と部数は表1-1のとおりである。

東北地方の高校	250 部
オープンキャンパス	530 部
高校生の本学訪問	300 部
進学説明会	100 部
企業	100 部

表1-1 大学案内配布先と部数(平成23年度)

なお、以上のように全学で対応していて学科ごとに説明する必要がないため、学科ごと に説明することは行わない。

# (3) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

本学の理念・目的について検討する仕組みの確立とその適切性について現状を説明する。 短期大学の基本的である「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」については、 本学の根幹に関わることから、あまり近視眼的に頻繁に変更していくような性質のもので はないと考えている。しかし、もちろん社会の変化などに応じて、その適切性の検証が必 要になることはあり得るので、理念や目的が実態と齟齬をきたさぬよう不断に検証するこ とは必要である。本学では、基本的な理念と目的・目標の下に、短期大学として中期目標 を定めている(資料1-8)。現在の中期目標の期間は、平成21年4月1日~平成27年3 月31日までの6年間であり、中期目標の期間ごとに中期目標を見直すシステムとなってい る。この中期目標ごとに目標を6年単位で検証し、更新していく制度が整備されている。 各学科についても同様のシステムで検証を行う仕組みになっている。

#### 2. 点検・評価

理念と目的などの設定については、短期大学の理念と目的を「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」に適切に設定している(資料1-1)。さらに、この理念と目的・目標にしたがって、「山形県立米沢女子短期大学定款」第1章で、本学の目的を適切に定めている(資料1-2 第1章 総則)。以上のように理念と目的などを適切に設定している。周知・公表については、上記のように本学発行の各種印刷物とホームページ上に掲載し、教職員と学生に周知させるとともに、社会に対しても公表している。以上のように理念と

定期的な検証については、短期大学の中期目標を定めており、中期目標の期間の6年ごとに検証を行うシステムが整っている。以上のように定期的に検証するシステムが確立している。

目的などを短期大学構成員に適切に周知し、社会に対して公表している。

#### ①効果が上がっている事項

本学の理念と目的などの社会に向けた公表については、次のような点で効果が上がっていると考えられる。

平成 24 年度入学生に対して行ったアンケート調査の結果、表 1-2 のような結果が現れた(資料 1-9)。「どのような手段で本学を知りましたか」という質問に対して、「大学案内」が第 3 位に入っている。これは「大学案内」を広く配布していることが効果を発揮しているものと考えられる。また、第 1 位が「高校の先生から」、第 2 位が「家族・友人から」となっており、高校の先生だけではなく、家族や友人にまで本学の存在を認識してもらっていることを如実に表している。以上のことから、社会に対する公表は十分に行われているものと思われる。

表1-2 平成24年度新入生アンケート結果より抜粋

高校の先生から	44.4%
家族・友人から	23.6%
大学案内	11.2%

#### ②改善すべき事項

評価項目(3)に、理念と目的を定期的に検証しているかどうかが問われているが、本学では基本的な「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」そのものを定期的に検証するというシステムは構築していないので、今後どのように検証すべきか考えていきたい。

#### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

本学は全国的にはあまり例のない、総合短期大学であることから、東北六県だけではなく、全国からの受験者、入学者がいる。そうしたことから、全国的に本学の理念や目的を発信していくことが求められる。そこでこれまで入学者がいた高等学校を統計的に調査し、その中から「大学案内」などの本学の資料を送付していくこととする。

#### ②改善すべき事項

「山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標」を定期的に検証するシステムを構築していないことから、定期的に検証するあり方について自己評価改善・SDFD 委員会で検討を行う。

#### 4. 根拠資料

- 1-1 山形県立米沢女子短期大学の理念と目的・目標
- 1-2 公立大学法人山形県立米沢女子短期大学定款
- 1-3 山形県立米沢女子短期大学学則
- 1-4 平成24年度年度計画
- 1-5 学生生活の手引(平成24年度)
- 1-6 2012 大学案内
- 1-7 教育方針
- 1-8 公立大学法人山形県立米沢女子短期大学中期目標
- 1-9 平成 24 年度新入生アンケート結果概要(およびデータ)